

第65回関西広域連合委員会

日時：平成28年1月28日（木）

午後4時57分～午後5時53分

場所：大阪府立国際会議場12F 特別会議場

開会 午後4時57分

○広域連合長（井戸敏三） すみません、少し開会が遅れてしまいました。第65回広域連合委員会を開会させていただきます。

最初に、吉村大阪市長、吉村委員が初めての参加でございますので、一言ご挨拶をお願いいたします。

○委員（吉村洋文） ただいまご紹介賜りました第20代の大阪市長に就任いたしました吉村でございます。大阪市は関西広域連合に加入させていただいておりますが、この関西が一体となって成長していくというのは非常に大切だと思っておりますので、大阪市としても積極的に関西広域連合が一体になって、この関西全域の成長を目指していくことに貢献したいと思っております。広域連合の一員としてしっかり大阪市もやっけてまいりますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

○広域連合長（井戸敏三） 吉村市長に委員に加わっていただいたこと、昨年12月の奈良県の加盟に続きまして、大変心強い体制ができると信じております。どうぞよろしくご協力をお願いいたします。

前任の橋下委員が広域産業振興分野の副担当ということで当たっていただいておりますので、それを引き続きお願いをすること、吉村委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお取り扱い願いたいと思います。

それでは、冒頭、私から報告をさせていただきたいと思っております。

先ほどこの第65回の連合委員会が開会する前に、JR西日本から北陸新幹線についての考え方を聞き取る機会がありました。後ほどJR西日本が説明された資料は関係の皆様にもお配りをさせていただくことにさせていただきます。その説明は、先日の

与党P Tに説明された内容と全く同じでありますので、J R西日本からの説明の内容については、私からは繰り返すことはいたしません。

そうすると、3年前の4月25日に決めました我々の取組方針とその取り扱いをどうするかということが課題になるわけでありまして、我々として相談をさせていただきました。平成25年4月25日に「北陸新幹線（敦賀以西）ルート提案に係る取組方針」を定めています。この取組方針は、いわゆる米原ルートが適当だということを前提にした方針であったわけでありまして、この方針を取りまとめた前提としては、できるだけ早く大阪に乗り入れることを期するべきだ。ですからスピード感ですね。それからもう一つは、できるだけコストが掛からないルート選定をしたい。この二つを前提にこの米原ルートを決定させていただいたものです。しかし、その後いろんな状況の変化が生じています。特に、今日のJ R西日本の説明によりまして、米原ルートは基本的にダイヤがいっぱいで乗り組みができないというのではないかと、それからJ R東海とJ R西日本との技術的な違いがあって、それを調整できるかできないか、今の段階ではもう目途が立たないと、こういうようなお話もいただきましたので、そのことを考えますと、そのままこの基本方針を堅持し得ないのではないかとということになりますので、これまでの経緯や検討の論点も踏まえながら再検討せざるを得ないということにいたしました。この再検討をせざるを得ないという意味、いろいろあるんですけども、しかし時間が今の与党P Tのルート決定までの時間が余りありませんからルート自体の具体的な我々としての提案というのは難しいかなというのがみんなの意見でございます。論点としては、やはり大阪までいかに早くスピード感を持って乗り入れていくのか。それから並行在来線というのが生じるのか生じないのかよくわかりませんが、この並行在来線の取扱についても検討を図る必要がある。その他、リニアの大阪への乗り入れとの関係、新大阪にそういう余裕があるのかないのかとかありますし、それから関西全体として見たときに、関空へのアクセスをどう考えるのかとか、あるいは山陰新幹線の取扱をどう考えるのか、あるいは四国新幹線

もどう位置づけるのかというような関西全体としての交通網整備の将来展望みたいなものも踏まえておく必要があるのではないかなどが考えられますので、きちんと論点は整理をしておく必要がある、このように考えています。

ともあれ、これからも北陸新幹線の大阪乗り入れの早期実現を期して関西広域連合としても費用負担やその他の課題を関西全体として乗り越えるように取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、この点に再検討するという点については、大阪府さんはもう再検討の余地もないのではないか、もう国なり決定権者に任せたらいいのではないかということをおっしゃっておられまして、今のような基本的な考え方については、少し判断を留保したいということでもありますので、大阪府さんは判断留保されているという取り扱いにさせていただきます。とりあえず皆さんに報告をさせていただきました。

それでは、本論に入らせていただきたいと思います。

最初に事務局から平成27年3月の補正予算についてご説明をさせていただきます。

事務局、お願いします。

○事務局 資料1をお願いいたします。補正予算全体でございますが、平成27年度3月補正予算の1、歳出予算の内容でございます。全体で見ますと、2,012万6,000円の増額でございます。

その主な要因でございますが、3府県への運航回数が大幅に増加したことによりまして、運航経費が増加したことによるものでございます。その他の各項目につきましては、表に記載のとおりでございます。

それから歳入でございます。2に記載のとおり、歳出の増額に伴いまして、構成府県市の負担金につきまして、増額をさせていただくものでございます。さらに雑入、それから国庫支出金の額の確定に伴うもの、雑入の内容となっております。

なお、各構成府県市に負担をお願いいたします負担金につきましては、3枚目の資料に記載のとおりでございます。

以上でございます。

○**広域連合長（井戸敏三）** 3月補正ですので、整理的な予算補正になっております。ドクターヘリにつきましては、運航時間の増に伴うものでございます。これを3月補正予算として提案させていただきますので、よろしくご理解いただきたいと思います。よろしゅうございますか。何かご意見ございますか。

それでは、次に移らせていただきます。

続きまして、関西人口ビジョンと関西版総合戦略の概要につきましてご説明をさせていただきます。また、ご意見を伺いたいと思います。

○**事務局** 資料2をご覧ください。

関西人口ビジョン及び関西版総合戦略（関西創生戦略（仮称））の概要についてでございます。

まず、策定趣旨でございますが、関西圏域の活力を取り戻すため、効率的かつ効果的な取組を緊急的かつ集中的に実施するため、「関西人口ビジョン」及び「関西版総合戦略」を策定したいと考えております。

策定スケジュールといたしましては、平成28年3月までに平成27年度版を策定し、平成28年度次期広域計画の改定作業を踏まえ、改定版を策定することとしております。

三つ目の規約変更及び広域計画改定につきましては、関西広域連合規約第4条第1項第1号及び関西広域連合広域計画第5の8、その他広域にわたる政策の規格調整等にそれぞれ「まち・ひと・しごと創生法第9条第1項に規定する計画」を追加し、総合戦略を位置づけるものでございます。

4番目の関西人口ビジョン及び関西版総合戦略の骨子案の概要でございますが、関西人口ビジョンにつきましては、関西の人口に関する現状などの分析、考察を実施し、国の長期ビジョンと整合を図りながら施策の効果を見込み、自然増減や社会増減に関する仮定を置いて、関西の将来人口を展望することと考えております。

関西版総合戦略につきましては、基本的な考え方を「国土の双眼構造を実現する関

西」、「人が還流し地域の魅力を高める関西」とし、基本目標・基本的方向及び具体的な施策は、関西圏域の展望研究を参考に設定していきたいと考えております。

具体的な施策のイメージ、平成27年度版ベースですが、産官学連携によるイノベーションの強化・推進、官民が一体となった関西の国際観光の推進を強化し、「KANSAI」を世界に売り込む、東京と関西双方で連携・分担する防災庁（仮称）機能の検討などを考えております。

以上でございます。

○広域連合長（井戸敏三） 大変盛りだくさんの内容を非常に簡単に説明させていただきましたけれども、一つは、次の2月議会にぜひご理解いただきたいのは、関西版の総合戦略の策定の根拠を規約に置かせていただきたいということでありまして、3ページに別紙1にありますように、まち・ひと・しごと創生法9条第1項に規定する計画を規定に掲げさせていただきたいと考えております。ただ、この原案自身は第1次案として3月までにまとめますが、オーソライズがこの規約が全部出そろわないとオーソライズできないということになります。構成府市の中で、議会ルールとの絡みで、急に提案がしにくいというところもおありだと聞いておりますので、その従来議会のルールに乗せていただいて、もしかすると少し正式の規約改正が出そろうのは、今年の5月とか6月にずれ込む可能性がありますので、それから規約改正をして、承認をもらってオーソライズをするという運びになりますので、その点ご了解いただきたいというのが一つです。

それからもう一つは、人口の取り扱いなんです。別紙4でご説明したと思いますけれども、今それぞれの各府県市でまとめられている人口をそのまま足し上げるという方式もあるわけですが、それですと国の予定している2060年1億人から逆算した数字よりかなり下回るというような数字になるらしいです。

したがって、ご説明申し上げましたように、関西の位置づけや関西の自然増減と社会増減を検討いたしまして、それを踏まえた上で、国のフレームにも合致するよ

うな人口を関西全体として提案をしたいと、このように考えてご説明を申し上げました。これから作業をしてまいりますので、ご意見を頂戴する機会がありますので、そのときに調整をさせていただいたらありがたいと思っています。3月までには、関西版の総合戦略をまとめ上げていきたいと考えます。

19ページの別紙5にありますように、その骨子案としましては、「国土の双眼構造を実現する関西」と「人が還流し地域の魅力を高める関西」という基本目標を前提にして取りまとめを進めさせていただきたいと考えています。総論部分の国土の双眼構造、あるいは人が還流し地域の魅力を高める関西の分野については、本部で検討いたしまして、産業とか文化・観光、防災、医療、スポーツ、環境分野などにつきましては、分野別の各委員さんのもとで検討をしていただいて、最終的に取りまとめて成案を得るということにしたいと考えております。

以上、私からも補足説明をさせていただきました。

ご意見等ございましたらどうぞ。山田委員、どうぞ。

○委員（山田啓二） この総合戦略をつくって、そして具体的な施策を実行していくと、交付金等も当たるのですか。

○事務局 今、国に出して交付金を当たるように協議しているところでございます。

○委員（山田啓二） 何か反対をされているとか、何か問題が起きているのですか。

○事務局 規定上戦略ができて、問題点といいますか、まだ新しい平成28年度の要綱等もできておりませんので、総合戦略が今まだできていない中で、どうしていくかということを協議しております。

○広域連合長（井戸敏三） 具体の事業を我々広域連合が実施する分野というのは非常に少ないと思います。例えば観光とか、文化とか。

そういう分野で広域連合として行う分野があるだろうなど。スポーツ計画の推進とかですね。防災とか何かになってくると、調整が中心ですから、考えられないなど。環境はあるかもしれませんが、もしかするとうまく仕立てられれば。医療も難しいか

もしれませんね。つまり、いずれにしてもハードは全然ないでしょうし、ソフトの事業で応援をもらえるような分野があるのではないかと考えられるという状況です。

○委員（山田啓二） 今おっしゃいましたように、一番ターゲットになってくるのが観光と文化だと思いますので、この総合戦略の中で具体的なタマ出しができるように仕込んでいかないとはいけませんので、その点は事務局と打ち合わせていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○広域連合長（井戸敏三） できれば、交付金対象事業で広域連合として取り組めるようなものをうまく仕立てられれば、これにこのプランに上げておく必要が出てくるとは思いますので、そのような注意もしながら検討していただきますと、分野別計画も検討していただきますとありがたいと思います。

それでは、作業が余り時間がない中でまとめていかなければいけませんので、ご迷惑をおかけすることになるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、続きまして、この委員会でもご議論いただきました関西広域スポーツ振興ビジョンでございます。もう最終版になっていますが、まだまだこの点が足りないというところがあるようでしたらご意見をお伺いさせていただいて、盛り込ませていただきますので、説明は省略させていただいて、基本的にご了解いただいたということにさせてください。どうぞよろしくお願いいたします。

関連しまして、関西ワールドマスタースゲームズの発言を吉村委員から求められておりますので、吉村委員、どうぞ。

○委員（吉村洋文） 関西ワールドマスタースゲームズについて、これまで大阪市内では、事業の収支計画であったり、あるいは事業効果、そういったところがなかなか不明瞭な状況にあると。そういった中では、大阪市として参加するのは、その現状においては難しいというのがこれまでの考え方でしたが、この課題についていろいろ検討してきまして、一定の課題の解決というのは見えてきたのかなと考えております。収支計画においても、ある程度基礎自治体としてどの程度負担するのかということも

明らかにもなってきたと。

それから事業効果に関しては、そもそもこの関西ワールドマスターズゲームズをどう捉えるかというところもあると思うのですが、大阪市も生涯スポーツの振興という点については、力を入れてやってきているという意味において、当然観光の側面もございしますが、基礎自治体、あくまで市町村という基礎自治体の立場で考えたときに、この生涯スポーツの振興という点では、費用対効果も考えたときには、一定これは意味があることだと判断いたしました。例えば開会式であったり、閉会式であったり、セレモニーを中心に、やはりこの大阪市というのは、関西の中でも中心的な位置づけにありますので、そういったところで貢献する。それによって、大阪市民にとって、生涯スポーツの振興ということに資するんじゃないのかというように考えております。広域連合もそうですけれども、経済団体ともしっかり大阪市はタッグを組んで、大阪、関西の経済成長を図っていこうという方針で今進めています。IRやその他さまざまありますが、そういったところも含めて考えた上で、この関西ワールドマスターズゲームズについては、特にセレモニーのようなところで、大阪市として貢献できないのかという観点から参加をすることで進めていきたいと思っております。

○広域連合長（井戸敏三） 吉村委員から積極的なお話を頂戴しました。我々としては大歓迎であります。そのような意味で、関西ワールドマスターズゲームズ2021の準備をきっちりと進めさせていただきたいと思えます。

ついでにお願いでございますが、来年の4月にニュージーランドのオークランドで世界ワールドマスターズゲームズの第9回大会が行われます。その大会までに骨格的な内容を固めておく必要がございます。ということは、これから1年少しで、そのような作業をしていくことにつながりますので、ワールドマスターズゲームズ組織委員会の方から事務局体制の強化についてご協力をそれぞれお願いしてまいりますので、是非積極的な協力をお願い申し上げたいと存じます。吉村委員と奥田副委員のところには、これからでありますので、ご協力を初めてお願いすることになろうと思えます

が、どうぞよろしくご検討もお願いしたいと思います。あわせまして、大阪府も積極的な再検討、先ほどの再検討は留保されましたけれども、この再検討は留保せずに積極的に再検討していただきましたら幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

○委員（三日月大造） 協議事項から報告事項に入る前に2点申し上げます。

まず、先ほど冒頭ご確認いただきました北陸新幹線の取組方針については、私は連合長がご提起いただいた内容で結構ですが、私どもとしては、米原ルートは早期かつ低コストであるという観点で意見を申し上げており、国に対しては、早期開業など関西広域連合がとりまとめた留意点をしっかりと伝えていただきたいということが1点です。

そしてもう一つは、原発の安全協定の問題です。

先般1月25日に、滋賀県は、関西電力と高浜原発の安全協定を締結いたしました。この間、関西広域連合にもさまざまなご心配をいただき、いろいろとご助言もいただいていたところがございます。私どもが求めておりました立地自治体と同様の権限を持つものには残念ながら至りませんでした。稼働、非稼働にかかわらず現存する原発と向き合うという観点と、今後滋賀県の意向も含めて引き続き協議するという関西電力側の見解。並びに事故発災時の琵琶湖へのモニタリング協力、さらには滋賀県のエネルギー政策への協力といった内容も盛り込まれましたので、今回締結をさせていただきました。

なお、さまざま再稼働に向けた動きもあるやに報道等で承知しておりますが、私どもは、かねてから実効性ある多重防護体制の確立が必要であるということを申し上げておりましたし、静脈の対策もまだまだ未整備であるという観点からすれば、再稼働を容認できる環境にはないという立場に変化はないと考えておりますので、引き続き、この点を関西広域連合の中でも議論をしてまいりたいと思います。その意味で、年末にこの委員会で確認をいたしました申し入れについては、沢山の課題があったと思いますので、現在、新たな動きがいろいろある中で、この点について、関西広域連合と

してもしっかりと国並びに電力事業者に対して、その履行並びに返答、誠意ある対応を求めていただきたいと思います。

以上です。

○広域連合長（井戸敏三） 12月に申し入れをいたしました。これはどちらかというところと回答を求めるといっても、広域連合はこういう立場でこういうような内容を国として積極的に検討して、例えば法制度化しろ、それから静脈対策とおっしゃいましたけれども、きちんとした核廃棄物の処理の方式が定まっていないところについて明確にされたいということと、それから3番目としてモニタリングを含めて安全対策としてかなり広域的な対応になると思いますが、具体的な避難訓練などの実施を留意事項として提案しておりましたので、1番目と2番目の問題については直ちに解決が難しいかもしれませんが、3番目の避難訓練などの、我々自身も対応するべき必要がある事柄でもありますので、どのような時点で、どういう体制で取り組んでいくのかにつきましては、広域連合としても検討してご相談をしていきたいと、このように考えております。

○広域連合長（井戸敏三） 山田委員、どうぞ。

○委員（山田啓二） 北陸新幹線の問題でありますけれども、ルートの問題は確かに時間的な問題があるということなので、大変難しいということは理解しております。ただ、並行在来線の問題、また本日の経済界との意見交換会の中で申し上げましたけれども、やはり関西全体の交通体系がなかなか決まらないままなし崩し的に進んでいった場合に、最終的な整合性の問題が出てくると思っております。今日もJRのお話の中で、既存の新大阪駅、既存の京都駅に入れるかどうかについては、疑問符のような発言もありました。そういうことを考えると、やはり関西広域連合としてこうした問題点を政府与党のPTに伝えていただきたいと思いますということを申し上げておきたいと思っておりますし、それを前提にやはり関西が一つにまとまって一日も早い大阪までの接続が実現するように連合長には働きかけをお願いしたいと思います。

それから原子力発電所の問題につきましては、京都府は高浜原発から三キロという位置にありながら、今回の再稼働手続において、同意を求められていません。非常に遺憾としか言いようがない状況でございます。それだけにどういう形で公正な再稼働のプロセスが担保されるのかを国に求めて行くべきであると考えております。関西広域連合からは法律をつくるべきだという提案をしていただいておりますけれども、これをまた適切な時期にもう一度しっかりと国に求めていただきたい。そして、住民の安全を守るために、実効性のある避難訓練等を関西広域連合でもしっかりと行っていただくことをお願い申し上げたいと思います。

○広域連合長（井戸敏三） 山田委員からの申し入れも十分に踏まえながら、さらにできることをきちんとやっていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

どうぞ。

○委員（吉村洋文） まず、北陸新幹線に関しては、これまでさまざま議論もしっかりとされてきた中で、特にできるだけ早くしっかりとこの大阪につなぐということをやはり最優先にさせていただきたい。いたずらにこの議論をすることによって、これが延びることがないようにお願いしたいというのが一つ。

それから補足になるんですけれども、関西ワールドマスターズゲームズについては、私自身がこれから部局に対して、今日を皮切りに準備を進めていくよう指示することになりますので、連合長、先ほど事務局のお願いをと、当然これはこちらも協力するのが当然なんです、まずは今日を皮切りにということです。具体的なところは事務方で詰めていくということも踏まえていただいて、事務方もまだ準備していないところからのスタートですので、そこはご配慮をお願いしたいと思っています。

○広域連合長（井戸敏三） それでは、協議事項は以上とさせていただきます、次に報告事項に移らせていただきたいと思います。

報告事項の第1番目は、「関西文化の日」の実施結果です。

山田委員、よろしいですか。

○委員（山田啓二） 昨年の11月14日、15日、「関西文化の日」を行いまして、過去最多の602の施設に参加いただきました。ただ、当日は両日とも雨になりましたので、平成26年度の48万人という記録には届かずに47万人でとどまりましたけれども、取組が定着したのではないのかなと思っております。「関西文化の日」、まさに文化の中心は関西からということで、来年度も実施してまいりますので、引き続きよろしくお願いを申し上げます。

以上です。

○広域連合長（井戸敏三） 来年度、今年の文化の日にもしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

続きまして、資料5ですが、「メディカルジャパン2016大阪」の開催につきまして、植田副委員、お願いいたします。

○副委員（植田 浩） 資料5にございますように、2月24日から26日まで、第2回目となります医療総合展「メディカル ジャパン2016大阪」が開催されます。ここにおきまして、関西の強みであります医療・ライフサイエンス分野の産業ポテンシャルのPRですとか、イノベーションの創出を目指しまして、関西広域連合ブース「関西バイオクラスター」の出展ですとか、マッチングセミナーなどを開催しようというものでございます。

ブースの概要は真ん中絵の下にございます。ブースの展示内容といたしまして、関西広域連合の紹介ですとか、②にあるブース内セミナー、これは次の紙に1枚紙で関西バイオクラスターと書いてありますけれども、こういうセミナー、26の取組を紹介しようという企画ですとか、裏面に参りまして、④の産官学による製品・試作品の展示ですとか、あるいは医療機器の相談なども行おうというものでございます。加えて真ん中にありますように、研究成果企業化促進セミナーの実施ということで、企業とのマッチングにもつながるような企画も取りそろえておりますし、その次のアフター

コンベンションの実施ということで、例えば京都大学IPS細胞研究所等々医療ライフ・サイエンス分野の研究機関、産業拠点の見学ツアーも実施しようとしているところでございます。既に来場者の募集も開始されておりますので、ぜひ多数の方々のご参加をお願いしたいと思っております。

以上でございます。

○広域連合長（井戸敏三） この機会に最先端の生化学分野のクラスターの状況を把握していただくにはいい機会になろうかと思えます。関心のおありの皆さん多いと思えますが、振るってご参加いただきますと幸いです。

続きまして、3月の定例議会であります、3月5日午後1時からこの国際会議場の3階のイベントホールで開催をさせていただきます。予算と条例審査と規約の改正などが中心になりますが、どうぞよろしく願いをいたします。

それから配付資料で、続きまして、瀬戸内海環境保全知事・市長会議の資料がございますが、瀬戸内海環境保全特別措置法の改正が行われました。前回の委員会で琵琶湖の環境保全法の改正の概要につきまして、三日月委員がご説明いただきましたので、私から瀬戸内海環境保全特別措置法の改正について、概要を説明したくパンフレットをつくらせていただいたものでございます。ただ、これは何のために改正したかといいますと、瀬戸内海というのは、もともときれいで豊かで美しい海だったわけであり、水質が40年代大悪化しまして、瀕死の海と言われた中で個別規制と総量規制を瀬戸内の特別措置法をつくりまして実施してまいりまして、環境基準を観測地点の1ポイントを除いて全て達成をするまでにきれいになりました。しかし、きれいになり過ぎまして、有機塩類等が不足するということが生じまして、魚介類やノリを中心とした瀬戸内海の水産物の生産が一番ピーク時の4割の水準まで下がってしまいましたので、豊かな海をもう一度取り返そうではないか。だからどうするかというと、藻場をつくるとか、磯を復元するとか、あるいは例えばダムを1年に1回ぐらい開放していただいて栄養分を海へ流すとか、いろんな対応がありますので、これらをそ

それぞれの海、灘に適した対応をしていくということを計画でつくりまして、それを実施していこうという法律をつくったわけでございます。手法もいろいろありますし、状況を観察しなければいけませんので、5年間の経過時点でもう一度見直すという見直し条項も入れさせていただいている法律でございます。大阪湾でいいますと、大阪湾のエリアの湾灘協議会、播磨灘の湾灘協議会、これが具体の地域の協議会を発足させて議論を進めていただく必要がありますので、ご承知おきいただきましたら幸いです。また、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

私からの説明は、以上でございます。

どうぞ。

○委員（飯泉嘉門） 先ほど経済界の皆さんとの時に御礼を先に申し上げてしまったので、皆様方には申し訳なかったのですが、御礼です。このベートーヴェン第九、世界、アジア初演、日本初演の地が徳島ということで2年後の2018年がいよいよ100周年ともなります。そして何と言っても東京オリンピック・パラリンピックのいわゆる文化プログラム、カルチュラル・オリンピアド、関西広域連合から全国知事会、そして今ではいよいよ文化庁が行おうと、リオのオリンピックが終わってからということで、その前に関西広域連合が言い出しっぺなのでやっていこうではないかと、皆さんとともに決めたその一つとして、2,000人の第九、関西広域連合も皆様方にはこれ、エリア約400名、それぞれこの30日行われますが、このプログラムの中にはそれぞれのお名前を、もちろん12月に入っていたいた奈良の皆さん方のお名前も入っているわけでありますが、約400名ご参加をいただいております。心から感謝をいたしますとともに、今回は100周年に向かったのホップ、そしてステップ、ジャンプ、そしてさらにはカルチュラル・オリンピアドへと、こうした広がりを考えておりますので、これからもさらなるご協力をいただければと思います。どうもありがとうございました。

○広域連合長（井戸敏三） 成功をお祈りしております。

それでは、三日月委員、どうぞ。

○委員（三日月大造） 一番後ろに長浜盆梅展のお知らせと、委員の方だけで恐縮ですが、2枚の招待券をつけさせていただきました。第65回の盆梅展が開催中ですが、樹齢数百年の木、並びにもうほとんど皮だけでつながっているような梅の木が可憐に花を咲かせ、かぐわしい香りを漂わせておりまして、春を呼ぶ風物詩になっております。ぜひ琵琶湖の源流、関西の源流と言っても過言ではない長浜の地に梅を楽しみにお越しいただければと存じますので、よろしくご案内申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） ありがとうございます。

予定しておりました議題は以上であります、この際何かご意見等がございましたらお願いしたいと思います。

よろしゅうございますか。

それでは、以上で第65回連合委員会を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

○事務局 それでは、引き続き記者会見に移りたいと思います。質問のある記者は挙手をお願いしますでしょうか。

どうぞ。

○産経新聞記者 産経新聞の永原と申します。

吉村市長にお伺いしたいのですが、ワールドマスターズゲームズに関連してですが、開会式、閉会式、セレモニーで協力をするということなんですけれども、競技についての立候補はお考えなのかどうかお聞かせいただけますでしょうか。

○委員（吉村洋文） まず競技については、今第1次の競技の募集も締め切って、皆さんさまざま手を挙げておられる状況かと思っております。ですので、競技は関西全域でしていただければいいのかなと思っております。現時点では、やはりこの地の利を生かしたという意味では開会式や閉会式、そういったセレモニーで、この大阪府がそこに貢献できないか、そしてそこを大阪市民に積極的にアピール、PRをして

いって、生涯スポーツの振興に役立てていきたいと思っております。

○産経新聞記者 総額7億円と言われている、自治体の負担金についても大阪市は今後支払っていくというお考えですか。

○委員（吉村洋文） 7億円の分担割合等々は決まっております、競技に参加するかしないかによっても変わってきます。競技に手を挙げるということは現時点では考えていないですけれども、それはこれからの協議ということになっていくと思うのですが、そういった負担金が幾らぐらいになるのかというのも当然試算した上で、その負担金についても当然負担をして、参加していくと考えています。

○産経新聞記者 大阪府と判断が分かれることになりましたけれども、それは松井知事とはコンセンサスはとれているのでしょうか。

○委員（吉村洋文） 大阪府とは判断は分かれますが、これはあくまで、例えば大阪で実際に実行するというのは、これ基礎自治体が行っていくことになるわけですね。今大阪府下でも5つぐらいの市がこうやって競技に手を挙げていますけれども、大阪市としても基礎自治体として、その場所を使ってしっかりPRしていくということになると思いますので、特に矛盾しているとか、そういうことではないのかなと考えておりますので、基礎自治体として考えたときには、やはり生涯スポーツの振興という意味では、私はあってもいいのかなと、もう費用対効果は全部検討した上での判断ですね。

○産経新聞記者 すみません、本日の議題とは違うのですが、TPP担当の甘利大臣が辞意を表明されまして、各首長さんの方々にとっても非常に影響が。

○事務局 すみません、今日の議題と関係ないことはやめてください。お願いします。

はい、どうぞ。こっちの一番左の人。

○産経新聞記者 産経新聞の江守と申します。

井戸連合長にお伺いしたいんですけれども、先ほど北陸新幹線に関して再検討とい

うことを示されたんですけれども、それはいつ頃までにどのような形で再検討されるのかということと、あと実効性についてはどのようにお考えでしょうか。

○広域連合長（井戸敏三） 先ほど申しましたように3年前に決めた基本方針を堅持するというわけにはいかなくなってしまうという状況になっておりますので、そのような意味で、その3年前の基本方針は、それこそ約2年ほどかけて議論をしながら積み上げたきたものでありますので、その論議の積み上げだとか、あるいは課題かと問題点も踏まえながら、現時点に合った検討をせざるを得ないのではないかということにしたということです。ただ、先ほどもつけ加えましたように、もう時間的な制約もありますので、具体のルートを、広域連合が改めて提案をしていくというのはなかなか難しいのではないかと考えています。ただ、もし北陸新幹線の大阪までの乗り入れを考えた場合に必要となる論点ですね、課題、それに対しての我々の考え方を明確にしていく必要があるのではないかと、そのような意味で精力的に検討を加えていきたい。もし5月までに自民党のプロジェクトチームが決められるんだとすると、それに間に合うようなスケジュール感を持って検討を加えていくということになるということになるかと思っております。

○産経新聞記者 その決定に対する実効性というのはどの程度あるんでしょうか、その意味というか。

○広域連合長（井戸敏三） 実効性というのはどういう意味なんでしょう。もともとルート決定について我々は提案をしている立場ですので、その提案が採択される場合もあるでしょうし、採択されない場合もある。そのことは前提としながら、しかし地元関西として私たちの意見というのをきちんと提案していくべきだというスタンスで提案をしていきたいと、こういう立場であると考えています。

○産経新聞記者 ありがとうございます。

あともう1点すみません、再検討ということに対するそれぞれの委員の方々のお考えを、特に。

○広域連合長（井戸敏三） これは時間がかかるばかりだから。

○産経新聞記者 関連のある三日月知事と山田知事と、あと吉村市長にお願いしたいんですけども。

○広域連合長（井戸敏三） 個別取材してください。この場では私が連合としてのお答えをさせていただいたということにしてください。

○事務局 すみません、さっき手を挙げていらっしゃったその方。

○朝日新聞記者 すみません、朝日新聞の紺野と申します。

吉村大阪市長にお伺いしたいのですが、例のワールドマスターズゲームズの件ですけども、改めて橋下市長はずっと参加に慎重だったわけですけども吉村市長になって参加に方針転換をされた理由を教えてください。

○委員（吉村洋文） まず前市長の時も、これ絶対反対ということではなくて、やっぱり課題があるだろうと、その中で市民の税金を使うことはできないよと、そういうことだったわけですね。今回この課題というのがどういうことなのかというのをしっかりと分析をして、やはり状況が変わってきているところがありますので、例えば収支計画に至っては、ある程度一定明確になってきていると、先ほどの負担の具体的な中身であったり、ある程度そういったところは明確になってきているのが1点。

それからこのワールドマスターズゲームズ自体をどう見るのかというところをもう一度私のほうでも考えました。これについては、やはり観光を大きな圏域として進めていくという側面と、それから生涯スポーツ、これを進めていくという、この両面をあわせ持っている、ほかにも意義はあるんですが、そういったことを考えたときに、基礎自治体の大阪市として見たときに、一つはその生涯スポーツの振興というところで貢献するというのは、大阪市民にとってもメリットがあるんじゃないのかなと思ったのが1点、それから広域連合もそうですが、経済界とも一体になって、経済や、あるいは大阪の成長を進めていくというのが基本的な僕の考え方でもあるので、経済界の皆さんの意見もしっかり聞いて、私が経済界に要望したいこともしっかり言いなが

ら意見交換をする中で、このワールドマスターズゲームズについては、基礎自治体として参加することに一定の意義があると判断したということに尽きるかなと思いますね。

○朝日新聞記者　　今経済界とおっしゃいましたけれども、吉村市長は常々協調というのを大事にされるということで、市議会との関係なども協調とおっしゃっているわけですが、これはやっぱり経済団体とか、例えばこの広域連合とのやっぱり配慮というか、協調していくという上で、そういうのも参加を決める上での一つの要素にはなかったのでしょうか。

○委員（吉村洋文）　　決定的な理由、決定的な要素にはなっていないですが、一つの要素であることは間違いないのかなと思っています。最終的には、この事業を単体として見たときに、参加する意味があるのか、ないのか、それが最終的な決定理由ですから。そういった意味では、核となる部分は、このワールドマスターズゲームズについて検証して結果を出したということ。それから副次的には、経済界、それから広域連合とも一体になりながら連携をとるところは連携をとってやること、これによって大阪自身にもメリットがあるという判断をしているということですね。

○朝日新聞記者　　先ほどもありましたが、最後に競技への参加というのもこれはできればやっていきたいということなんですか。

○委員（吉村洋文）　　競技については、今第1次競技について、多くの自治体の方が手を挙げている状況ですが、広くこの関西全域でこれを成功させなきゃいけない事業ですので、そういったところでしっかりやっていっていただきたいという思いはあります。大阪市として果たすべき役割というのを考えたときには、やはり関空があり、そして関空から直接この中心地が大阪市になっていると。関西全体としても地の利を見ても中心地が大阪市であるのならば、やはりその開会式であったり、閉会式であったり、そういったところでしっかりとPRすることが全体にとってもメリットになるんじゃないのかな、そして大阪市民にとってもメリットがあるんじゃないのかなとい

うふうに今考えています。ですので、今の段階で、どの競技に手を挙げるといのは考えていないです。

○朝日新聞記者 ありがとうございます。

○事務局 すみません、もう時間が参りましたので、これで最後にさせていただきますと思います。

どうぞ。

○日本経済新聞記者 日本経済新聞の種田です。

北陸新幹線について、もう一度お尋ねします。

連合長がさっきおっしゃったように具体のルートを5月末までに提案するのは難しくなるとおっしゃいましたけれども、これは可能生が極めて低いという意味なのか、それとももうしないということに限りなく近いのか、どちらでしょうか。

○広域連合長（井戸敏三） 可能性が限りなくゼロに近いということですね。というのは、先ほども触れましたように、約2年かけて議論をしてきたのが3年前の基本的な方針だったんです。ところがその議論は生かすべきところの議論も随分あります。例えば並行在来線の取り扱いによっては、関西全体で受益の度合いなどを勘案しながら取り組んでいこうじゃないか、協議を進めていこうじゃないかというようなことなども非常に重要な議論の成果ですので、そういう議論の成果も一方で踏まえながら、しかし、今日の説明を聞いてもJR自身も具体のルートを提案しているわけではありませんので、そういう状況の中で代替案を5月ぐらいまでにつくれるかということ、それはなかなか難しいなという意味で、あえてつけ加えさせていただきました。ただ、そのルートを考えるような場合にも、配慮すべき論点とか、留意事項はありますので、それらについてはきちんと意見として申し上げておくことが必要なのではないかと考えています。

○日本経済新聞記者 与党の西田委員長は広域連合にお話を聞くことをヒアリングに対して消極的ですが、そうするとこれはヒアリングへの出席を申し入れるよ

うな形になるんですか。

○**広域連合長（井戸敏三）** 申し入れるというのも一つですし、意見を出すというのも一つですし、やり方はまだ時間がありますから、よく検討していきたいと思っています。

○**日本経済新聞記者** 最後に、三日月知事は先ほど了解したことの理由をおっしゃられませんけれども、広域連合が見直し、再検討することの理由と同じなんですか。

○**委員（三日月大造）** この北陸新幹線の敦賀以西がどこを通るのかということは関西にとって極めて大きなテーマだと思います。したがって私たちは主体的に検討し、3年前に一定の結論を出し、そして同時に課題提起もしておりました。ただ、私もつまびらかにその当時のことを知りませんが、営業主体になるであろうJRからのヒアリングは、十分にできなかつたと承知をしております。今般、与党および関西広域連合に対して営業主体になるであろうJRがさまざまな課題提起をされたということでございます。それを受けて、関西広域連合として、どう考えていくのか、ということについては再検討をすることも是とすべきであろうということでございます。井戸連合長が言われたとおり、これまで議論してきたことを踏まえて議論しようということですし、その議論の中で個別の自治体の考えを述べていくということも排除されていないわけですから、しっかりと議論していきたい。いずれにしても早く、そして財政のことを考えて安く大阪までつないでいくということだと思います。

○**日本経済新聞記者** ありがとうございます。

○**事務局** ありがとうございます。

これをもちまして、終了させていただきます。

閉会 午後5時53分